

平成 30 年度 第 2 回高岡市総合教育会議 会議録

I 日時 平成 31 年 2 月 13 日（水）午後 2 時～午後 3 時 40 分

II 場所 高岡市役所 3 階 庁議室

III 出席者 高岡市長 高橋 正樹
高岡市教育委員会
教育長 米谷 和也
教育委員 長谷田 祐一
教育委員 森 美和
教育委員 長尾 順子
教育委員 土田 一清

事務局関係

総務部

次長・総務課長 戸田 龍太郎

総務課係長 木村 文徳

教育委員会事務局

教育次長 柴田 文夫

教育次長・学校教育課長 高松 毅

参与 川辺 勝治

教育総務課長 藤田 辰昭

教育総務課副課長 島田 輝

教育総務課係長 水上 暁

IV 傍聴者 1 名

V 協議の概要

1 開会

・市長あいさつ

【高橋市長】

昨年来、学校の適正配置や学校のあり方、また幅広く将来の教育のあり方について教育委員会でご検討いただいていたが、今般、高岡市教育将来構想検討会議において、小中学校の配置の基本的な方向について取りまとめいただいたとのことである。

将来の高岡を担う子ども達の教育の充実は喫緊の課題であると考えており、一定の規模を確保するための学校の再編統合は、本市としても長年の課題であった。これまで中学校区単位での市民懇談会やパブリックコメントなどを行い、積極的なご意見も

多く寄せられたと聞いている。本日は、この報告を踏まえて市総合教育会議としての方向性を確認したいと考えている。

2 協議事項

(1) 今後 10 年を見据えた高岡市における小中学校の配置の基本的な方向について (教育長説明)

【市長】

小学校の再編については、避けて通れない課題であると考えている。また、新しい教育の内容・方法に取り組むためにも、学校環境を整える必要があると考える。今回、各中学校区で説明をしていただいたが、今後の学校の状況について考えなければならぬという認識については、皆さんにご理解いただけたと思う。

【長尾委員】

私も地域住民の 1 人として、懇談会に参加した。どのような課題や反対意見があるのかということを知りたく参加したが、反対というよりはむしろ進めてほしいという感じであった。子どもが少ないことは皆知っているが、改めて数字で示されると皆さんの中で将来の高岡の姿が危機的に映ったのではないかと思う。

パブリックコメントを読むと、課題とアイデアが提示されており皆さんが応援しているような思いがした。さらにスピード感をもって一日も早く市民の皆さんの信頼に応えられるものを作っていかなければならないと感じた。

【森委員】

私も懇談会に出席したが、出席された方が自分たちの校区以外の子ども達のことにも高岡の宝として考えておられ、質問についても、前向きなものが多かったことに驚かせられた。地域ぐるみで子どもを育てようという高岡の良さが伝わってきた。この機会をチャンスとしてぜひ取り組んでいければと思う。

【長谷田委員】

資料をみると、早く学校再編をしてほしいという意見が多いと感じる。この話が出るたびに、なぜもっと早くしなかったのかという意見を色々な人から聞く。そういう意味では、アクセスや区割りの心配等はあるが、ほとんどの方は総論賛成であり、より良い教育環境の整備について、皆さんが期待していると感じた。

【市長】

教育の問題は関心が高く、懇談会では、大変活発に意見交換がされたと聞いている。また、パブリックコメントでもたくさんのご意見をいただいている。

市内の 26 小学校のうち、いくつかの中学校区について集中的に検討が行われているようだが、再編対象校の選び方や経緯についてはどうか。

【教育長】

再編対象については、検討会議の中で、基本的な方向性として、「規模を確保すること」、「高岡市の学校の配置に配慮すること」という大きな2点を示していただいた。中学校は現状の12中学校区を維持し、その中で、小学校を考えた場合、平成36年には、石堤小学校は33人の4学級、千鳥丘小学校は151人の6学級、東五位小学校は245人の10学級となる。特に石堤については複式学級2学級となり過小規模と呼ばれる学校となる。また、国吉小学校は117人の6学級、川原小学校は149人の6学級、横田小学校は134人の6学級、西条小学校は、280人の11学級、平米小学校は87人の6学級、定塚小学校は314人の12学級、伏木小学校は168人の6学級、古府小学校は198人の8学級、太田小学校は66人の6学級となる。

適正規模は、1学年2学級という以上であり、学校全体では12学級となるが、定塚小を除いて、いずれも小規模・過小規模な学校となる。一定規模を確保するという観点や学校配置、将来の規模の見込み等から今回の対象校が定まったところである。

【市長】

適正規模、小規模、過小規模に定義はあるのか。

【教育長】

学校教育法施行規則及び公立小・中学校の国庫負担事業認定申請の手引で示されている。

【市長】

今回の再配置については、目指すべき姿があると思うが、どのような点に着目しているのか。

【教育長】

検討会の委員は、未来の子ども達のためにという熱い思いを持っておられる。取りまとめの資料にもあるが、学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子ども達の成長を支える高岡ならではの夢や希望を育む教育の将来像をしっかりと描いていきたいということで、それぞれの立場からご意見をいただいている。

【市長】

今回のとりまとめの中にある、全ての中学校区で高岡ならではの多様な立地条件に応じた様々な一貫教育とはどのようなことか。

【教育長】

検討会議では、高岡市の教育の目指すべき方向性として、「教育を通じて個性を磨き、生きる力を高め合っている」、また、学校教育の基本方針として「確かな学力・豊かな心・健やかな体をはぐくむ教育」といったことをベースとして議論いただい

ている。

また、小中一貫教育・連携教育については、これまでの高岡市での連携教育の取り組みを踏まえた上で、さらに国が示す一貫教育を次の目指すべきステップとして取り組んでいくという方向性を考えている。

一貫教育では、小中学校双方が目指す子ども像や教育目標を共有し、これまで6年間と3年間で分断されていた教育から、9年を見通した教育課程や時間割を組み、子ども達の成長を切れ目なく応援する教育を目指すことになる。

その際、学校の配置については、校舎はそれぞれ分かれているので、基本は分離型となる。普段から教員間の連携や生徒間の交流を図る中で、高岡方式の小中一貫教育を進めていきたい。

【市長】

具体的にどのようなことが高岡らしいということになるのか。

【長尾委員】

「こうなりたい」と思う憧れによって子ども達は成長できると思うが、ものづくりデザイン科をはじめ、憧れを持てる魅力ある学校づくりを進めることが高岡らしさにつながるものと思う。

【市長】

今回、6中学校区について再編を契機として小中一貫教育を実践したいとあるが、今回再編する学校についての小中一貫教育の考え方は。

【教育長】

例えば国吉小中学校の場合、これまでも校舎が隣り合っており、地域の皆さんにも小中学校が一体として映っている。自然豊かで国吉りんごや学校林もある。自然体験や交流もしながら、地域の皆さんにも協力していただく中で、これまでも実践を基本とし、国吉ならではの9年間について、明確に構成していきたい。

【市長】

各小中学校がそれぞれ持っているリソースが、子ども達の9年間に一番ふさわしく活用されていくことで、小中学校の壁や無駄な重複がないようにということ全体を理念とし、再編する小学校のコンセプトとしていくということかと思う。

【市長】

国吉中学校区では、義務教育学校にとの提言であるが、他の学校がいわば水平統合であることに對し、垂直統合という形であり、そのことについて理解が得られているのか。また、平成32年度という予定は目の前に迫っている感じがあるが、達成可能なのか。

【教育長】

国吉中学校区については、市民懇談会以外でもお伺いしてご意見をいただくことを重ねてきたところであり、平成32年のスタートに一定のご理解をいただけたと思っている。その中で、国が新学習指導要領を平成32年から実施するため、そのタイミングで本市においても9年間一貫した切れ目のない指導をする教育に取り組んでいきたいと考えている。

【市長】

高岡西部中学校区については、県立高岡西高校の活用の記述があるが、これについての進め方についてはどうか。

【教育長】

県立高校である高岡西高校については、しっかりと最後の卒業生を送り出していきたいと思っている。先日、県の会議において市長の意向を伝えていただいているので、教育委員会としても県教育委員会と連絡をとらせていただきたいと思っている。これまでの高岡西高校が地域で果たしてきた役割を我々が継承させていただくことも含め、皆さんにご理解いただければと思っている。

【市長】

将来構想検討会議については、今回一定の方向性を見出していただいたが、今後どのようになるのか。また、再編統合の実施にあたって、協議の場を設けるとのことだが、どのようなものを想定しているのか。

【教育長】

提言でもいただいたが、地域の皆さん、保護者等関係の皆さんと丁寧に議論を重ねながら、納得していただける方向で一緒に新たな学校づくりをしていくことが大変重要だと認識している。そのため、地域の方々、保護者、有識者等から構成する新しい学校づくりに向けた会議を早急に立ち上げさせていただき、皆さんのご意見をお伺いしながら具体的な課題等について検討していきたい。

市全体については、引き続き検討会議に状況を報告しながら助言いただきたいと考えている。

【市長】

再編する際の懸念の1つに通学距離の問題があるがどうか。

【教育長】

福岡小学校では、地域のバスも活用し通学バスでの対応を行っているため、そうした取り組みを基本としながら個別具体について検討していきたい。

【市長】

今後 10 年を見通した高岡市における小中学校の配置の基本的な方向について、委員の皆さんもご賛同しているものと受け止めた。改めて次の事項について確認させていただきたい。

まず、市内の全ての中学校区において小中一貫教育をそれぞれの地域に応じてさらに推進していくこと。そして、相互に成果を共有し効果の高い取り組みを進めていくこと。そのうえで、再編統合を契機として高岡ならではの小中一貫教育を確立し、これらを通じて一層の教育充実を図ること。

各校区的具体については、国吉校区については1中学校1小学校で、隣接している立地条件を生かし義務教育学校での小中一貫教育を推進する。さらには新学習指導要領が全面実施となる平成32年度を目途として義務教育学校とし、本市における小中一貫教育の推進校として先導的な役割を担ってもらう。

高岡西部中学校区は、川原・横田・西条の各小学校を再編統合し、高岡西部中学校との間で小中一貫教育を推進する。平成34年3月に最後の卒業生を送り出す県立高岡西高校の敷地・校舎を併設する西条小学校とともに一体的に活用することについて調整を進めるものとする。

高陵中学校区については、平米・定塚小学校を再編統合し、高陵中学校との間で小中一貫教育を推進する。

伏木中学校区については、太田・伏木・古府の3小学校を再編統合し、伏木中学校との間で小中一貫教育を推進する。

中田中学校区においては、1中学校1小学校であることから、中田小学校と中田中学校を併設し、小中一貫教育を推進する。

また、これらの中学校区については、保護者や地域の方々、有識者からなる新たな学校づくりに向けた協議の場を設け、再編統合が着実に進むよう具体的な検討を行う。以上の方向で教育委員会において準備を進めていただきたいと思います。

高岡の将来を担う子ども達の教育の充実は最重要課題であると思う。今後の様々な課題については、教育委員会内に学校再編・教育改革の推進部署を設置するとともに、地方創生や地域づくりの観点からも全庁あげて取り組みたい。

(2) 学校環境の整備について (教育委員会事務局教育総務課 説明)

(ア) 小・中学校の普通教室等へのエアコンの設置について

(イ) 新学習指導要領の実施に向けたICT環境等の整備について

【市長】

快適な環境をつくることと、つくられた環境で学ぶということを子ども達がどう受け止めるかということは課題であると思っている。子ども達が自然環境の中で逞しく育つような取り組みをお願いしたい。

ICTについては、ぜひ活用していただきたい。5Gやsociety5.0をはじめ、社会全体がICTにより大きく変わってきている。

子ども達がそういった社会で自己を確立していけるようにする必要があるかと思

う。そのためには ICT をツールとしてだけではなく、社会全体がどのように動こうとしているのかといったことを教えていただくことも必要かと思う。

以上